

# 成功基準(サクセスクライテリア)作成ガイドライン

2010年11月30日  
宇宙航空研究開発機構  
チーフエンジニアオフィス

## 1. 本文書の目的

本資料は「JAXA 技術プロセスガイドライン」の一部をなすものとして、成功基準作成における指針となることを目的とする。

## 2. 成功基準とは

成功基準とは、『ミッション目標に対する達成の度合いを計るための基準』である。

ミッション目標には科学・利用・技術実証といった様々な種類が存在するが、いずれの場合の成功基準も JAXA が国民に対して宣言するものである。

成功基準は機構として定めるものであるため、経営審査(プロジェクト準備審査及びプロジェクト移行審査)において経営的視点から審査される。ミッションを提案する者は、ライフサイクルの終わりまでを見通し、関係者との合意を得て総合プロジェクト的な視点から成功基準を作成し、MDR や SDR 等の本部審査を受けておく必要がある。

成功基準は、予め定められた時期(例えば定常運用終了時など)にミッションの達成度合いを評価する際に参照される。また、ライフサイクルの途中における大きなシステム仕様の変更、あるいは不具合などが発生した際の判断のために参照される。

## 3. 成功基準に記載すべき事項

- ① ミッション目標  
一つのプロジェクトに複数のミッションがある場合にはそれぞれに対応した目標を設定する。
- ② 各目標に対するサクセスレベル(ミニマムサクセス、フルサクセス、エクストラサクセス)  
ミッション全体を俯瞰した上で、JAXA の責任で実施する成功基準を、可能な限り定量的に記載する。
- ③ 各基準に対する達成判断時期・実施主体(必要に応じ)・設定根拠(別文書可)

#### 4. 関連資料

別紙1: 成功基準作成における留意点

別紙2: サクセスレベルの目安

別紙3: SAC プロジェクト評価の視点に基づく成功基準

添付1: 過去の衛星の成功基準例

添付2: 宇宙開発に関するプロジェクトの評価指針 (参考資料4-1)

## 【参考1】 成功基準作成における留意点

- a. ミッション目標の設定
  - 国民への成果の還元を考慮し、具体的なエンドユーザを特定する。例えば利用衛星ならば、いかに社会に受け入れられて有効に使われるかという視点を持つ。
  - 複数のミッションがある場合にはそれぞれに対応するミッション目標を制定し、優先順位づけを行う(複数ミッションの場合は、それぞれの相互関係もしくは独立性を明確にしておくこと)。
- b. 成功基準の制定
  - ミッション全体を俯瞰した上で、JAXA の責任で実施する成功基準を制定する
  - ミッション範囲の明確化
    - 他機関と合同でミッションを達成する場合には、その役割分担と責任分担を明確にしておく。
  - 利用ミッションや科学ミッションの場合は、基本的にはミッション成果項目が成功基準となるが、技術実証も同時に行う場合はそれも成功基準となりえる。
  - 技術実証ミッションの場合は、技術実証項目が成功基準となる。
- c. 定量的な表現(数値目標)とする
- d. 達成判断時期をできる限り明記する
- e. 基準を制定した考え方の根拠を明記する (別文書可)
- f. 成功基準は、SAC のプロジェクト評価を受けることを考慮する
  - 開発費用が概ね 200 億円を越えるプロジェクトの場合、「SAC プロジェクト評価」の対象となるので、その際の評価の視点を把握しておく。(別紙3と添付2参照)
  - SACにおける報告は、国民への宣言と等価であるとの認識を持つ。
- g. 成功基準の制定及び改訂はシステムズエンジニアリング推進室長通達第 19-1 号「プロジェクトマネジメント実施要領」第 6 条(ミッション要求書の作成)に準じた手続きで実施する。改訂にあたっては、国民への宣言を変更することに相当するという認識を持った上でステークホルダの承認を得る必要がある。

## 成功基準の雛形

サクセスレベル ミッション目標	ミニマムサクセス	フルサクセス	エクストラサクセス
① ..... ..... 注 1	..... ..... 達成判断時期: (実施主体):注2	..... ..... 達成判断時期: (実施主体):	..... ..... 達成判断時期: (実施主体):
② ..... .....	..... ..... 達成判断時期: (実施主体):	..... ..... 達成判断時期: (実施主体):	..... ..... 達成判断時期: (実施主体):
③ ..... .....	..... ..... 達成判断時期: (実施主体):	..... ..... 達成判断時期: (実施主体):	..... ..... 達成判断時期: (実施主体):

ミッション全体を俯瞰した上で、  
JAXAの責任で実施するミッシ  
ョン目標を制定

定量的な表現  
とする。注3

注 1: ミッション目標を優先順に並べる

注 2: 実施主体が JAXA の場合は特に記載しなくてもよい

注 3: 定量的な基準を設けたその根拠を示しておく (別文書可)

## 【参考2】 サクセスレベルの目安

### <<サクセスレベルの目安>>

- ・ フルサクセスの目安（100点（優）のイメージ）  
 予定していた要求を満たし、計画通りの成果を得る。  
 (ア)「ユーザ要求を実現する」場合の成功基準例：  
 定常運用期間を全うし、ミッション要求書にあるユーザ要求を満たす  
 (イ)「JAXAの実施主体範囲が技術開発である場合、或いは技術開発自体がミッション目標である」場合の成功基準例：  
 定常運用期間を全うし、開発仕様書にある主要な技術要求／システム要求を満たす。
  
- ・ ミニマムサクセスの目安（60点（可：合格）のイメージ）  
 フルサクセスには至らないが最低限のミッション要求を満たす。衛星の縮退モードなどとは必ずしも連動しない。  
 (ウ)「ユーザ要求を実現する」場合の成功基準例：  
 過去のデータと同程度のものが取得できた場合、短期間でも何らかの有意義なデータが取得できた場合 etc  
 (エ)「JAXAの実施主体範囲が技術開発である場合、或いは技術開発自体がミッション目標である」場合の成功基準例：  
 重要な機器単体の動作が確認できた場合、複数ある機器の一つが機能した場合 etc
  
- ・ エクストラサクセスの目安（100点越え（秀）のイメージ）  
 (オ)フルサクセスを越えて成果を得る。